林道事業再評価調書

事業名	林道開設事業　（森林基幹道）	路線名	川崎国見山線（かわさきくにみやません）
事業主体	徳島県	関係市町村	三好市（旧池田町・西祖谷山村）

事業概要

【事業目的】

本路線は三好市山城町下川の国道32号を起点とし、同市池田町川崎地区を経由して同市西祖谷山村尾井ノ内の市道尾井ノ内後山線を終点とする林道で、この林道の開設により、森林の適正な管理や保全、効率的な森林施業を推進するとともに、木材等の林産物運搬距離の短縮や森林整備・林業生産等の促進と生活基盤の改善を図ることを目的としている。

また、国道32号・県道山城東祖谷山線と並行して計画されており、災害発生時には国道・県道の迂回路として、緊急輸送路を補完する機能も併せ持ち、集落の孤立化を防ぐ役割も期待されている、地域にとって欠くことのできない非常に重要な路線である。

【事業内容】

利用区域面積	2,356ha	［人工林面積:1,674ha（71%）］
受益戸数(森林所有者数)	395戸	
幅員	4.0～5.0m	
計画延長	20,840m	（うち令和5年度末の供用予定延長　16,626m）
総事業費	6,400,000千円	（うち令和5年度末の実施予定事業費　5,497,790千円）
事業予定期間	昭和61年度 ～ 令和16年度	（49年間）

評価項目

【事業の進捗状況】

起点側池田町では9,601m、終点側西祖谷山村で7,025m、路線全体で計16,626mが完成供用を予定している。

平成30年7月豪雨災害により復旧事業に人員を奪われたことで一時、担い手不足となり進捗に影響を受けたが、

［進捗率:80%］

【関連事業の整備状況】

西祖谷山村側の供用開始した区間では、県営林素材生産事業において、木材生産量増に向け森林作業路の作設後、森林整備を行い間伐材の搬出が行われている。引き続き森林整備計画があり、更なる林道整備の推進が期待される。

また、池田町側でも林道開設後に作業道が整備され、間伐材の搬出等木材生産が盛んに行われるなど、これまでに延べ1,692haの森林整備が実施されている。

【社会経済情勢の変化】

本県は県土の4分の3を森林が占め人工林率も約60％と高い。森林資源量はこの40年間で約3倍にまで増加し、その大部分が利用可能な状態まで成長している。県では、利用期を迎えた豊富な森林資源を活用するとともに、カーボンニュートラルにも資する森林循環（伐って、使って、植える）を進めることにより、森林・林業を「核」とした「地方創生」の実現を目指している。

木材を安定的に生産・供給し、林業・木材産業の成長産業化を図るには、搬出コストの低減が必須であり、高性能林業機械の導入や効率的な木材輸送のための、林道を基幹とした路網整備が強く求められている。

【計画上重要な部分の変更の必要性の有無】

無し

【費用対効果の分析】

供用開始した区域を利用して、昭和61年度から令和4年度までに延べ1,692haの森林整備を実施している。今後、供用区間が増加するに伴い、さらに森林の整備や保全のための施業が進んでいく見込みである。

［費用対効果］　1.43　（国の採択基準は1.0以上）

【受益者・関係機関の意向】

地元三好市をはじめ森林所有者等も、地域林業及び地域の活性化及び緊急時の避難路及び迂回路の機能も持ち合わせることから早期完成を強く望んでいる。

【事業の実施方針】

継続して事業を実施する。